

命を左右する産後24時間。カンボジアの母子支援のため、 目標300万円のクラウドファンディング開始！

特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパンは、世界的な援助削減による資金難のなかでカンボジアにおける母子の命を守る活動の継続を目指す。



レディフォーでクラウドファンディング実施中



産後の母子と助産師

特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン（理事長：神谷 洋平、以「PHJ」）は、クラウドファンディングサービス「READYFOR」にて、カンボジアの遠隔地における母子継続ケア連携強化プロジェクト実施費用を募るために「命を左右する産後24時間。カンボジアの母子の命を繋ぐ気づきと判断を」を公開しました。300万円を目標に、本日2026年2月16日（月）から3月31日（火）まで支援を募ります。

■背景とPHJの取り組み

出産直後から産後数日間、特に最初の24時間は突然の大量出血によって命を落とすリスクが最も高い時期になります。カンボジアでは、1970年代の内戦とポル・ポト政権により、医療制度は一度完全に崩壊した歴史があり、母子保健は脆弱な状況です。PHJの事業地シェムリアップ州ソトニクム保健行政区では医療施設で出産しても早い段階で自宅に戻ってしまうこともあるため、産後の観察やケアが十分とはいえない現状です。PHJは、これまで「安心安全な妊娠・出産」を促進し、今回は「安心安全な産後」を促進するプロジェクトを実施します。妊娠から出産、そして、産後の女性と生まれた赤ちゃんを、母子一体とした切れ目のない継続ケアの促進を目指していきたいと考えています。

■かつてない活動継続の危機

現在、PHJの活動はかつてない危機に直面しています。2025年の米国の人道援助凍結や欧米諸国の支援削減という世界情勢の激変や、公的補助金・民間助成金への申請団体の増加の影響を受け、PHJが申請した複数のカンボジア案件が不採択となりました。カンボジア事業の予算はほとんどなく、事務所の移転やスタッフの人数を半減し、活動継続の道を必死に模索しています。たとえ、政治や情勢が変わっても、目の前にある「救えるはずの命」を見捨てることはできません。この活動を途絶えさせないため、クラウドファンディングを通じて皆様と直接繋がり、共に未来を拓きたいと願っています。

■クラウドファンディングプロジェクト概要

タイトル：「命を左右する産後24時間。カンボジアの母子の命を繋ぐ気づきと判断を」

URL： <https://readyfor.jp/projects/2026phjc>

目標金額：300万円

募集期間：2026年2月16日（月）10時～3月31日（火）23時



特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパンは、1997年に米国の国際NGO「Project HOPE」の日本法人として設立され（2006年に独立）、2001年に認定NPO法人を取得。東南アジアで母と子を対象に「保健・医療の教育」を中心とした支援活動に取り組む国際協力NGOです。